

1. 科目名（単位数）	造形芸術Ⅱ（2単位）		3. 科目番号	SJMP2321
2. 授業担当教員	井戸川 敦			
4. 授業形態	演習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	造形芸術Ⅰの単位を修得した後に履修することが望ましい。			
7. 講義概要	造形芸術Ⅰにおける「みる、かぐ、あじわう、きく、ふれる」という人間の本来持っている五感を活用して、感じ、感じ取り、「扱う素材・材料の特性」を最大限に活かしながら表現し、伝える体験を更に深めていきます。また「上手い、下手」という一つの見方や価値観に捉われることなく、誰もが出来る、誰もが楽しめる造形プログラムに取り組みながら「美術」が本来持つ素晴らしさ、楽しさを実感してもらうことを目的とします。			
8. 学習目標	1. 技術的な「上手・下手」にとらわれず、ものづくりの楽しさや表現の喜び、感動を実感として得る。 2. 五感で感じ取り表現する体験をとおして独自の表現の力を養う。 3. 素材の特性を活かした造形表現能力を養う。 4. 感性と表現、五感と素材表現、プレゼンテーション、コミュニケーション能力を養う。			
9. アサイメント（宿題）及びレポート課題	1. 毎時の授業において制作する作品を提出課題とする。 2. 制作・鑑賞に関わるレポートの作成と発表を行う。 3. 鑑賞として、授業における取り組みの成果の発表を行う時間を設ける。 以上、詳細についてはオリエンテーションの際に説明する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】日本造形教育研究会編集『美術 表現と鑑賞 -想いを形に-』開隆堂出版 また、適宜資料を配布します。作品制作のための道具、材料は事前に指示するので各自で用意すること。			
11. 成績評価の基準と評定の方法	○成績評価の基準 1. 造形活動にどのように向き合い取り組んだかという点を評価する。 2. 作品への取り組み方による評価を行う。 ○評定の方法 授業への取り組み、制作や鑑賞活動の成果、レポート等を総合して評価する。 1. 授業への積極的参加 総合点の20% 2. 日常の学習状況及び自己課題への取り組み 総合点の30% 3. 制作や鑑賞活動の成果（ポートフォリオ等） 総合点の30% 4. 課題（作品発表、レポート等） 総合点の20%			
12. 受講生へのメッセージ	「造形表現Ⅱ」では、「造形芸術Ⅰ」で培った経験をもとに、積極的に自分の表現を探る。自分の興味関心を大切にして創意工夫を繰り返し、自分自身を深く感じ考え、美術史や自分を取り巻く環境などに照らし合わせながら自己を作りあげる。 カリキュラムの終盤からは自由制作とし、大作の制作に挑戦し、簡単ではあるが展示（作業）を行う。 1.制作活動で用いられる様々な材料・用具（描画材・絵の具・画用紙・キャンバス等）は、各自が準備すること。授業内で随時伝えていく。 2.絵の具などを使用するため、汚れてもよい服装で出席することが望ましい。			
13. オフィスアワー	授業前後の空き時間等（メールなどで事前にご連絡ください）			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第1回	◇ オリエンテーション 授業に関する諸注意 造形表現の構造について	事前学習	教科書『美術 表現と鑑賞 -想いを形に-』に目を通す。 過去の作品制作体験を振り返り、その経験をスケッチブックに絵や文章等で自由に表現する。	
		事後学習	「造形芸術Ⅰ」の内容をまとめ、「造形表現Ⅱ」でやってみたいことのイメージを膨らませ、アイデアや表現をスケッチブックに描く。	
第2回	◇ 表現の基礎 素材の特徴と組み合わせについて （講義＋演習）	事前学習	過去の作品制作体験を振り返り、その経験をスケッチブックに絵や文章等で自由に表現する。	
		事後学習	美術・芸術作品に親しむ為に、メディアを通した美術鑑賞を行う。	
第3回	◇ ドローイングの制作Ⅰ 「イメージ画の制作」 （講義＋演習）	事前学習	教科書 pp. 46-47 を読む。 好きなもの・興味のあるものの特徴を観察し、スケッチブックに描く。	
		事後学習	完成度や内容より制作枚数（量）を意識して、自分の内面を感じながらどんどん手を動かす。	
第4回	◇ ドローイングの制作Ⅱ 「イメージ画の制作」 （演習）	事前学習	教科書 pp. 48-49 を読む。 次回のカリキュラムのために、立体表現の理解を深めることを目的として、web や画集などを使用して調べる。	
		事後学習	完成度や内容より制作枚数（量）を意識して、様々な感じながらどんどん表現する。また社会情勢にも目を向ける。	

第5回	◇ 立体作品制作 I 「廃材を使った造形表現」 題材の設定・制作の準備・構想と制作 (講義+演習)	事前学習	教科書 pp. 90-91 を読む。 造形表現に用いられる素材の種類を挙げ、それぞれの素材に対するイメージをまとめる。立体作品の制作に向けて、各自の題材に関する素材を収集する
		事後学習	実際に制作する立体作品についての制作方法やデザイン案をまとめる。
第6回	◇ 立体作品制作 II 「廃材を使った造形表現」 素材についての研究 (演習)	事前学習	教科書 pp. 64-65 を読む。 空き容器など、身近にある素材に目を向けて、造形材料の可能性について考える。身近な廃材を活用した作品制作に向けて、各自の題材に関する資料を収集する。
		事後学習	廃材を活用した制作活動を振り返る。他の学生が使用していた素材にも着目し、内容をまとめる。また今回の制作活動を振り返り記録する。
第7回	◇ フォトグラム -暗室作業の体験- (講義+演習)	事前学習	教科書 pp. 98-99 を読む。 様々な写真表現について、web や写真集などを使用して調べる。
		事後学習	好奇心を持って web や写真集、画集などを使用し、様々な写真作品を鑑賞する。
第8回	◇ 細密表現 I 「自分のテーマで」 (講義+演習)	事前学習	教科書 pp. 72-73 を読む。 様々なメディアを利用し、好きな作家の作品遍歴を鑑賞し、なぜそのように変化していったのかを考える。また現代美術にも目を向ける。
		事後学習	色々なところにアンテナを張り、テーマとなりそうな事柄に目をむける。
第9回	◇ オンライン美術館 「Google Arts & Culture を使用した現代美術への理解」 (講義)	事前学習	教科書 pp. 136-139 を読む。 中学校、高等学校において使用していた美術の教科書を見返し、好きな作家・作品について調べる。その際に、作品を好きだと感じる理由についても考える。
		事後学習	Google Arts & Culture を使用し、興味のある作家の作品について、考えたこと感じたことをまとめる。また現代美術についても考察する。
第10回	◇ 自分の表現 I 作品の構想を練る (素材やサイズなど) (演習)	事前学習	教科書 pp. 26-27 を読む。 美術館やギャラリー等の見学を通し、実作品の鑑賞を行う。
		事後学習	エスキース (下描き) を制作する。
第11回	◇ 自分の表現 II エスキース (下描き) (演習)	事前学習	教科書 pp. 150-153 を読む。 引き続き、美術館やギャラリー等の見学により実作品の鑑賞を行う。
		事後学習	翌週から制作する、自身の作品制作のための準備 (用具や道具など) をはじめ、構想を練る。
第12回	◇ 自分の表現 III 作品の制作-1 (演習)	事前学習	教科書 pp. 20-21 を読む。 引き続き、美術館やギャラリー等の見学により実作品の鑑賞を行う。
		事後学習	今回の自分の作品の内容 (コンセプトやコンテキスト、またメッセージなど) を文章化する。
第13回	◇ 自分の表現 IV 作品の制作-2 (演習)	事前学習	作品制作のための素材や資料などを、web などを活用し収集する。そして同時に、小さな支持体で、好奇心に任せてドローイングを繰り返す。
		事後学習	引き続き、美術館やギャラリー等の見学により実作品の鑑賞を行う。
第14回	◇ 自分の表現 V 作品の制作-3 (演習)	事前学習	作品制作のための素材や資料などを、web などを活用し収集する。そして同時に、小さな支持体で、好奇心に任せてドローイングを繰り返す。
			引き続き、美術館やギャラリー等の見学により実作品の鑑賞を行う。
第15回	◇ 自分の表現 VI 作品の展示、鑑賞、講評 (講義+演習)	事前学習	教科書 pp. 22-25 を読む。 他の学生の制作を、興味・関心を持って見てみる。そして、その内容 (コンセプトやコンテキスト、またメッセージなど) を尋ねてみる。
			他の学生の作品と自分の作品とを比較し、自身の独自性を客観的に把握するよう努める。もし機会があれば、どこかの会場で展示してみるのも良い経験となる。

